

はじめに

初級レベルで基本的な文法知識については習ったものの、実際の日常場面では上手に話せない、日本語の上達が実感できない、文法は固くて難しい、という学習者の声をよく聞きます。日本語力の向上が実感できず、中級の壁の高さを感じる学生も多いようです。日本語でコミュニケーションを行うためには、文法知識を学ぶだけではなく、実際の日常場面で文法項目がどのように使われるかを意識しながら各項目の基本的な意味や使い方や機能を学ぶことが大事です。

そこで、楽しく文法の勉強ができ、習った文法を実際に使える力をつけるために、実用的な文法教科書を開発しました。本教科書の目的は、正確な文法の意味の理解だけではなく、実際の日常場面で使えるように、運用能力をつけることにあります。そのために、文法の基本的な意味についてはもちろん、類似表現との違いや使い分け、コミュニケーションを行うときの役割等についても、きめ細かく説明し、たくさんの例文をあげました。例文では身近な場面を設定し、よく目にしたり耳にしたりするものを数多く提示し、日常の場面ですぐに応用できるようにしました。

また、勉強した文法項目の理解が確認できるように様々なタイプの練習問題を設けました。それぞれの練習問題を通して文法知識の確認だけではなく、話す練習、読む練習、書く練習を同時に行うことができ、運用力の向上にもつながると思います。日本語能力試験等を準備している学生には練習1、練習2を通して文法項目の正確な理解が確認でき、語彙力をアップさせることもできます。

本教科書を出版するまで、自作教材を開発して実際に授業で使用しながら学生からの質問や要望を取り入れて改訂を続けてきましたが、4年経って出版されることになりました。この教科書で学んだ多くの学生から「文法っておもしろい」「文法が好きになった」「使い方が分かってきた」という声が聞かれるようになりました。間違った所や理由について文法用語を使って説明できるようになり、日本語で話すときも正確さに注意を払って話すようになったという学生が増えました。コミュニケーションを意識した文法教育、話す・読む・書く能力も同時に伸ばすことができる文法教育の必要性を感じています。

本教科書を使いながら様々なご意見をくださった先生方、学生の皆さんに心より感謝申し上げます。授業では、学生の皆さんからたくさんの質問をいただき、文法教育の現場に必要なものは何かを考えさせられる貴重な時間となりました。先生方や学生の皆さんのおかげで、ご要望に応えられる実用的な文法教科書が開発できたと思います。

本教科書が出版されるまで編集担当の市川麻里子さんと原田麻美さんには一方ならぬお世話になりました。本教科書は学習者と教師の両方の観点から必要だと思われる内容を取り入れながら改訂を続けてきたため、学習項目が非常に多いものになりました。学習項目や内容の精査から、教科書全体の構成や各課のレイアウトはもちろん、文法説明や練習問題、解説に至るまで詳細に渡って何度も貴重なご意見をいただきました。中級文法の奥深さを改めて感じるができる大変有意義な機会となりました。心から感謝申し上げます。

この教科書がコミュニケーション能力を向上させるための中級レベルの文法教育の在り方を考える上で一つのきっかけになれば幸いです。

- ◎はじめに i
 ◎本教科書で勉強するみなさまへ iv
ほんきょう かしょ べんきょう
 To the Student vi / 致使用本教科書の各位 viii / 본 교과서로 공부하는 여러분에게 x
 ◎この教科書をお使いになる先生方へ xii

1	指示詞 <small>しじし</small>	2
2	助詞 <small>じょし</small>	12
3	複合助詞 <small>ふくごうじょし</small>	22
4	の・こと・もの	32
5	原因・理由 <small>げんいん りゆう</small>	40
6	目的・可能・願望 <small>もくてき かのう がんぼう</small>	50
7	いく・くる	60
8	する・なる	70
9	テ形と否定形 <small>けい ひていけい</small>	80
10	名詞修飾 <small>めいし しゅうじよく</small>	88
11	並列 <small>へいれつ</small>	98
12	時の表現 <small>とき ひょうげん</small>	108

13	授受表現 <small>じゅじゅひょうげん</small>	118
14	尊敬語・謙讓語 <small>そんけいご けんじょうご</small>	128
15	尊敬表現・謙讓表現・丁寧表現 <small>そんけいひょうげん けんじょうひょうげん ていねいひょうげん</small>	138
16	否定表現 <small>ひていひょうげん</small>	148
17	仮定表現 <small>かていひょうげん</small>	158
18	複合動詞 <small>ふくごうどうし</small>	170
19	自動詞と他動詞 <small>じどうし たどうし</small>	180
20	結果・状態 <small>けっか じょうたい</small>	192
21	受身 <small>うけみ</small>	202
22	使役・使役受身 <small>しえき しえきうけみ</small>	210
23	推量・伝聞 <small>すいりょう でんぶん</small>	220
24	判断・義務 <small>はんだん ぎむ</small>	234

◎文法用語解説 p.244
ぶんぽうようご かいせつ
 Glossary of Grammatical Terms /
 文法用語解説 / 문법용어 해설

◎索引 p.254
さくいん
 Index / 索引 / 색인

◎提出課順リスト p.259
ていしゅつ かじゆん
 List of Topics in Order of Chapter Appearance
 各課内容目録 / 제출과 순서 리스트

◎凡例 Reference/ 用例 / 범례

本教科書で勉強するみなさまへ

●本書の特徴

初級レベルで勉強したことがある、知っていると思う文法項目でも、実際には使えなかったり、正確な使い分けができなかったりするケースが多いと思います。初級から中級へ、中級から上級へと日本語の勉強を続けていくためには、文法の正確さ、語彙や表現の豊かさが必要です。

この教科書は、初級レベルで勉強した基本的な内容について復習しながら、さらにレベルアップし、実際の生活で正しく使えるようになることを目指しています。

第1課から第10課では、「まずは確認」で初級で学習した基本的な意味を説明し、「レベルアップ」で使い方や類似表現などについて説明しました。

第11課から第24課では、「確認」でその課の文法的な知識を説明し、「さらにレベルアップ」で類似表現や使い分け、用法などについてさらに丁寧に説明しました。

本教科書は文法項目について知識として知っているだけでなく、実際の生活で使える力を身につけるために、実際の日常の場面で使える表現や例文をたくさん取り上げました。各文法項目が日本の生活の中でどのように使われているかを考えながら勉強してください。

●本書の内容と構成

この教科書は24課で構成されていますが、前半の第1課から第10課では形の変化が少ない文法項目を中心に、後半の第11課から第24課では形の変化が多い動詞に関連する文法項目を取り上げました。各課は次のように構成されています。

以下に各セクションのねらいと内容を説明します。

活動	ねらい	内容
スタート・トーク	自分が持っている文法知識の振り返り	絵を見て、その絵の状況ではどんな表現が使えるか考え、会話を作ってみる
この課の表現	各課で取り上げる項目の意識化	各課で勉強する項目を確認する
まずは確認 [第1課～第10課]	初級レベルで学習した基本的な意味の確認	学習項目についての初級レベルの基本的な意味、使い方を確認する
確認 [第11課～第24課]	中級レベルで必要な意味、使い方の理解	中級レベルで必要な文法知識を確認し、意味や使い方を確認する
練習1	基本的な意味、活用の確認	動詞の活用や表現の基本的な使い分けを練習する二択問題

レベルアップ [第1課～第10課]	中級レベルで必要な文法項目、使い方、使い分けのポイントの理解	各項目の用法、関連のある文法項目の整理、一緒に使いやすい表現、類似表現との使い分けについて確認する
さらにレベルアップ [第11課～第24課]	中級レベルから上級レベルで必要な文法項目の理解	各項目のさらに詳しい用法、文法的特徴、使い方の制限、類似表現との使い分けについて確認する
練習2	使い分けなどの正確な文法理解の確認	使い分け、語彙の確認、類似表現との違い、コミュニケーション上の問題等を確認する四択問題
文作り	場面による文法運用力、産出能力の向上、正確さの確認	学習項目を使った文作りや文完成の練習を通して、使い方の定着を図る
間違い探し	学習した文法項目の意識化	間違いやすい誤用を意識化し、正しい使い方を確認する
用例見つけた!	学習モチベーションの高揚、維持	実際の文章(生教材)での学習項目の使われ方を見る
クロージング・トーク	その課のまとめ	「スタート・トーク」の内容をショート・ストーリーで読む。声を出して読んだり、暗記したりして、この課の内容を復習する

※ただし、第2課は練習1～6、第18課は練習1～3、第19課は練習1～4

●学習の進め方

各課の「まずは確認」「確認」で取り上げている文法項目の説明を例文とともに読み進め、「練習1」で確認してください。そして、「レベルアップ」「さらにレベルアップ」で類似表現や使い分け、用法を理解し、「練習2」「文作り」「間違い探し」「用例見つけた!」で確認してください。練習問題を解いたら別冊の解答で答えを確認し、分からないところがあれば本冊に戻って説明をもう一度読んで確認してください。「文作り」は与えられた言葉から文脈や場面を想像し、適切な文を完成してください。解答に一例がありますから自分の書いた文と比べてみてください。「用例見つけた!」は言葉の意味を確認しながら読み進めてみてください。「クロージング・トーク」は声を出して読み上げたり、暗記して言ったりしてみてください。

●語彙について… 文法解説の中の難しい語彙(旧日本語能力試験の2級レベル以上の語彙)には右側に英語、中国語、韓国語訳をつけました。例文の中にも難しい言葉が含まれていますが、辞書を引いて語彙の意味を確認してください。

●ルビについて… 読み方が難しい語彙(旧日本語能力試験の2級レベル以上の漢字)にはルビをつけました。中級レベルでは知らない言葉に出あうことも多くなると思います。辞書を引きながら、語彙を増やしていく練習に役立つと思います。

●文法用語解説について… 基本的な文法用語について、解説を入れました。「➡?p.000」のマークに従って参照ページをご覧ください。

●凡例について… 活用形を「凡例」で示しました。「➡凡例」に従ってご覧ください。

To the Student

● Purpose of this Textbook

When studying Japanese it is often the case that the student encounters situations involving grammar points studied at the beginner level and recalls having studied them but in fact struggles when trying to use the material in real life situations. When continuing to study Japanese, making the jump from the beginner to intermediate and intermediate to advanced levels accurate use of grammar as well as effective use of a wide vocabulary is essential.

This textbook aims to review the fundamentals of Japanese grammar learned at the beginner level while simultaneously striving to push the student further, seeking accurate use in daily life.

In chapters 1 through 10, the 「**まずは確認** (First, Let's Recall)」 section explains the basic meanings previously studied at the beginner level. The 「**レベルアップ** (Level Up)」 section proceeds to explain nuanced usages and similar phrases of these patterns.

In chapters 11 through 24 the grammatical points for the chapter are explained in the 「**確認** (Check Your Understanding)」 section. The 「**さらにレベルアップ** (Take the Concept Further)」 section explains in greater detail similar expressions, case specific differentiation and rules for use.

This textbook provides many examples and expressions used in daily life to help the student go beyond having only knowledge of the grammar structures to gain the ability to accurately use them in actual contexts.

● Contents and Structure of this Textbook

This textbook is divided into 24 chapters. The first part, encompassing chapters 1 through 10, focuses on grammatical points that have only small changes in structure. The latter half, chapters 11 through 24, provides grammatical patterns that take on many forms and have relevance to many verbs.

Below is an explanation of the purpose and function of the sections within each chapter.

Chapter Section	Purpose	Function
スタート・トーク Opening Dialogue	Review of the student's grammatical knowledge	Evaluates the student's pre-existing knowledge of the chapter's material. First look at the picture. Think about what kind of expressions can be used in the situation depicted in it. Then try to construct a conversation.
↓		
この課の表現 This Chapter's Expressions	Building consciousness of the patterns provided in each chapter	Clarifies the objectives of each chapter
↓		
まずは確認 First, Let's Recall [第1課～第10課]	Review of the fundamental meaning studied at the beginner level	Assesses the student's understanding of previously studied fundamental grammar patterns
確認 Check Your Understanding [第11課～第24課]	Determines comprehension of the usage and meanings essential for the intermediate level	Verifies the necessary grammatical knowledge and then also verifies its meaning and usage
↓		
練習1 Practice 1	Basic meaning and function check	Two option multiple-choice practice of verb conjugation and grammar function
↓		

レベルアップ Level Up [第1課～第10課]	Understanding the grammatical patterns, their use and the proper function necessary for the intermediate level	Clarifies the rules of use, necessary adjustments for related patterns and presents easy to use phrases and proper use of similar phrases for each grammar pattern
さらにレベルアップ Take the Concept Further [第11課～第24課]	Comprehension of grammar points needed to move up from the intermediate level to the advanced level	Fosters awareness of deeper rules of use, characteristics, limitations and differentiation between similar phrases for each grammatical pattern in the text
↓		
練習2 Practice 2	Verifies accurate understanding of the chapter's material	Four option multiple-choice practice for checking proper use, vocabulary, differences between similar expressions, and mistakes in communication contexts of the studied patterns
↓		
文作り Sentence Writing	Evaluates ability to apply the concept and improves sentence productivity and accuracy	Measures the student's grasp of the grammatical patterns provided in each section through the sentence construction and sentence completion exercises
↓		
間違い探し Error Search	Constructs a deeper consciousness of the grammatical patterns studied in the chapter	Checks for the correct usage of material and develops an awareness for easy to make mistakes
↓		
用例見つけた！ Real Life Examples!	Encourages and maintains motivation to study	Examines how the topics covered are used in actual contexts (raw materials)
↓		
クロージング・トーク Closing Talk	A summary of the chapter	Summarizes the material. The contents of the「スタート・トーク」are read as a short story. The student should review the contents of the chapter by reading it out loud or by memorizing it.

※ Exceptions to the above structure are Chapter 2 Exercises 1-6, Chapter 18 Exercises 1-3 and Chapter 19 Exercises 1-4

● How to Use this Textbook

For each chapter, first read the topics that are presented in the 「**まずは確認**」 and 「**確認**」 sections and then check your understanding in the 「**練習1**」 section. Next, read through the 「**レベルアップ**」 and 「**さらにレベルアップ**」 sections to increase your understanding of similar expressions and different uses and rules of the chapter topics. Check your understanding again in the 「**練習2**」「**文作り**」「**間違い探し**」「**用例見つけた!**」 sections. After completing the practice problems, check your answers in the answer section of the supplementary book. If you do not understand the answer return to the explanation in this textbook and try again. In the 「**文作り**」 section complete the sentence based on the words provided, taking into account the context of the situation. The answer section provides one possible correct example to compare with your answer. Next read the 「**用例見つけた!**」 section, reflecting on the meaning as you proceed. Finally, try reading the 「**クロージング・トーク**」 section out loud or committing it to memory.

- **About Vocabulary**... English, Chinese, and Korean translations are provided in the right hand margin for difficult vocabulary used in the explanation (vocabulary beyond the former Level 2 of the Japanese-Language Proficiency Test). The example sentences also include some difficult vocabulary. It is recommended that the student use a dictionary for these words.
- **About kanji reading help (rubi)**... Hiragana is written above the kanji that have difficult readings (for words beyond the former Level 2 of the Japanese-Language Proficiency Test). In the intermediate level one often encounters unfamiliar words. Using a dictionary to check the meanings of unfamiliar words is a good practice for increasing one's vocabulary.
- **About the Grammatical Terminology Explanation**... An explanation of fundamental grammatical terms is included in this text. For these terms consult the reference page as indicated by the 「→? p.000」 mark.
- **About the Explanations**... The forms of verb and adjective conjugation are provided in the 「**凡例**」 section. Please consult the reference as indicated by the 「→凡例」 mark accordingly.

致使用本教科书的各位

●本书的特点

在初级阶段曾经学习过的、自己以为已经掌握的文法项目，在实际中不能使用或无法正确使用的例子有很多。为了从初级到中级、从中级到高级持续的学习日语，掌握正确的文法、词汇及丰富的表现方法是必须的。

本教科书的目的是，在复习初级阶段学习过的基础内容的同时，进一步提高运用能力使其能在实际生活中正确使用。

第1课到第10课，在「**まずは確認**（首先是确认）」中说明初级阶段学习过的基本内容，在「**レベルアップ**（提高水平）」中对于使用方法或类似表现等进行说明。

第11课到第24课，在「**確認**（确认）」中对本课的文法知识进行说明，在「**さらにレベルアップ**（进一步提高水平）」中对于类似表现、使用区别及用法等进行进一步的详细说明。

本教科书对于文法项目并不单单只是作为知识去了解，而是作为实际生活中能够运用的能力去学习。因此本教科书中例举了许多日常生活中能够使用的表现方法及例文等。请一边思考各个文法项目在生活中是如何使用的，一边进行学习。

●本书的内容及结构

本教科书共24课，第1课至第10课，以变形较少的文法项目为中心。第11课至第24课则例举了与变形较多的动词相关的文法项目。以下是各课的构成。

以下对于各个部分的目的及内容进行说明。

活動	目的	内容
スタート・トーク 开始・会话	回顾自己所掌握的文法知识	看图，思考在此情况下可以使用何种表现，并试作会话。
↓		
この課の表現 这一课的表现方法	使学习者意识到各课所例举的学习项目。	确认各课的学习项目。
↓		
まずは確認 首先是确认 [第1課～第10課]	在初级阶段学习过的基本含义的确认。	确认学习项目在初级阶段中的基本含义及使用方法。
↓		
確認 确认 [第11課～第24課]	在中级阶段所必要的含义及使用方法的理解。	确认在中级阶段所必要的文法知识，并确认其含义及使用方法。
↓		
練習1 练习1	基本含义及词尾变化的确认。	双项选择题，练习动词的词尾变化或表现方法的基本使用区别。
↓		

レベルアップ 提高水平 [第1課～第10課]	理解在中级阶段所必要的文法项目、使用方法及使用区别的要点。	整理各个项目的用法及关联的文法项目，对容易一起使用的表现方法及类似表现的使用区别进行确认。
↓		
さらにレベルアップ 进一步提高水平 [第11課～第24課]	从中级阶段到高级阶段所必要的文法项目的理解	确认各个项目的更进一步用法、文法特征、使用方法的限制以及与类似表现的区别。
↓		
練習2 练习2	确认例如使用区别等的文法理解是否正确。	四项选择题，对于使用区别、词汇确认、与类似表现的区别及交流上的问题进行确认。
↓		
文作り 造句	提高不同场合的文法运用能力以及表述能力并确认其正确性。	通过造句或完成句子的练习，来达到完全掌握使用方法的的目的。
↓		
間違い探し 改错	使学习者意识到学到的文法项目。	使学习者意识到容易造成的误用从而确认正确的使用方法。
↓		
用例見つけた！ 寻找例句	学习动机的高扬和维持	阅读在实际文章（现实教材）中学习项目的使用方法。
↓		
クロージング・トーク 结束・会话	本课总结	将「スタート・トーク」中的内容写为短篇故事来读。通过发出声音朗读或背诵来复习本课内容。

※但是，第2课含练习1~6、第18课含练习1~3、第19课含练习1~4。

●学习的进行方法

将各课的「**まずは確認**」「**確認**」中出现的文法项目的说明与例文一起读后，在「**練習1**」中确认。然后，理解「**レベルアップ**」「**さらにレベルアップ**」中的类似表现、使用区别及用法，在「**練習2**」「**文作り**」「**間違い探し**」「**用例見つけた！**」中确认。完成练习问题后，在别册的答案中确认，如有不明确的地方请返回本书中再一次阅读说明。在「**文作り**」中请用所给单词想象文脉或场合来完成适当的句子。请试着将自己所写的句子与答案中的例句对比。请一边确认「**用例見つけた！**」中词语的含义一边阅读下去。请发出声音来朗读或试着背诵「**クロージング・トーク**」。

●**有关于词汇**… 对于文法解说中较难的词汇（旧日本语能力考试2级以上的词汇），在右侧标注了英语、中文、韩语解释。例文中也包含了较难的词汇，请查字典来确认词汇的意思。

●**关于注音假名**… 对读法较难的词汇（旧日本语能力考试2级以上的汉字）标注了注音假名。在中级阶段会遇到许多不认识的词汇。查阅字典对于增加词汇量的练习非常有帮助。

●**关于文法用语的解说**… 对基本的文法用语进行了解说。请根据「→?」p.000」标志在参照页查阅。

●**有关于凡例**… 活用形用「凡例」来显示。请根据「→凡例」浏览。

본 교과서로 공부하는 여러분에게

●본 책의 특징

초급 레벨에서 공부한 적이 있거나, 알고 있다고 생각하는 문법 항목이라도, 실제로는 정확하게 알고 있지 않거나, 올바르게 구별해서 쓰지 못하는 경우가 많이 있습니다. 초급에서 중급으로, 중급에서 상급으로 일본어의 공부를 계속하기 위해서는, 문법의 정확한 이해와 함께, 풍부한 어휘와 표현력이 필요합니다.

이 교과서는, 초급 레벨에서 공부한 기본적인 내용에 대해서 복습하면서, 더욱 레벨을 높여서, 실제 생활에서 올바르게 사용할 수 있게 되는 것을 목표로 하고 있습니다.

제 1 과에서 10 과까지는, 「まずは確認(우선은 확인)」에서 초급에서 공부한 기본적인 의미를 설명하고, 「レベルアップ(레벨업)」에서 사용법이나 유사표현 등에 대해서 설명했습니다.

제 11 과에서 24 과까지는, 「確認(확인)」에서 그 과의 문법적인 지식을 설명하고, 「さらにレベルアップ(더욱 레벨업)」에서 유사표현이나 특징, 용법 등에 대해서 상세히 설명했습니다.

본 교과서는 문법항목에 대해서 지식으로 알고 있는 것만이 아니라, 실제 생활에서 사용할 수 있는 능력을 향상시키기 위해서, 일상 생활에서 사용할 수 있는 표현이나 예문을 많이 게재했습니다. 각 문법항목이 일본의 생활에서 어떻게 쓰이고 있는지를 생각하면서 공부해 주세요.

●본 책의 내용과 구성

본 교과서는 24 과로 구성되어 있습니다만, 전반의 제 1 과에서 제 10 과까지는 형태의 변화가 적은 문법 항목을 중심으로 하고, 후반의 제 11 과에서 제 24 과에서는 형태의 변화가 많은 동사에 관련있는 문법 항목을 실었습니다. 각 과는 다음과 같이 구성되어 있습니다.

아래에 각 섹션의 목표와 내용을 설명하겠습니다.

활동	목표	내용
스타트·トーク 스타트토크	자신이 가지고 있는 문법 지식의 확인	그림을 보고, 그 그림의 상황에서 어떤 표현을 쓸 수 있는지 생각하면서, 회화를 만들어 본다
この課の表現 이 과의 표현	각과에서 배우는 항목의 의식화	각과에서 배우는 항목을 확인한다
まずは確認 우선은 확인 [第1課~第10課]	초급 레벨에서 공부한 기본적인 의미의 확인	학습항목에 대한 초급 레벨에서의 필요한 의미, 특징, 사용 방법을 확인한다
確認 확인 [第11課~第24課]	중급 레벨에서 필요한 의미, 특징, 사용 방법의 이해	중급 레벨에서 필요한 문법을 확인하고, 의미나 사용 방법을 확인한다
練習1 연습1	기본적인 의미, 활용의 확인	동사의 활용이나 표현의 기본적인 특징과 구별하는 방법을 확인하는 연습 문제, 둘 중 하나를 선택하는 문제

レベルアップ 레벨업 [第1課~第10課]	중급 레벨에서 필요한 문법 항목, 사용 방법, 구별 방법에 대한 포인트의 이해	각 항목의 용법, 관련이 있는 문법 항목의 정리, 같이 사용하는 경우가 많은 표현, 유사 표현과의 구별법에 대해서 확인한다
さらにレベルアップ 더욱 레벨업 [第11課~第24課]	중급 레벨부터 상급 레벨에서 필요한 문법 항목의 이해	각 항목의 보다 더 상세한 용법, 문법적인 특징, 사용하는 방법의 제한, 유사 표현과의 구별법에 대해서 확인한다
練習2 연습2	구별하는 방법의 정확한 문법 이해의 확인	구별하는 방법, 어휘의 확인, 유사 표현과의 상이점, 커뮤니케이션상의 문제점 등을 확인하는 선택형의 문제
文作り 문장 만들기	장면에 따른 문법의 운영 능력, 산출 능력의 향상, 정확성의 확인	학습 항목을 사용한 문장의 작성이나 문장을 완성시키는 연습을 통해서 사용 방법의 정착을 도모한다
間違い探し 틀린 곳 찾기	학습한 문법 항목의 의식화	틀리기 쉬운 오용을 의식화해서, 올바른 사용법을 확인한다
用例見つけた! 용례 찾았다!	학습 동기의 고양, 유지	실제의 문장(생교제)에서의 학습 항목의 사용법을 확인한다
クロー징・トーク 클로징 토크	그 과의 정리	「スタート・トーク」의 내용을 짧은 스토리로 읽는다. 소리를 내서 읽거나, 암기하거나 해서, 이 과의 내용을 복습한다

※단, 제 2 과는 연습 1~6, 제 18 과는 연습 1~3, 제 19 과는 연습 1~4

●학습을 진행하는 방법

각 과의 「まずは確認」「確認」에서 설명하는 문법항목을 예문과 함께 읽고 나서, 「練習1」에서 확인해 주세요. 그리고, 「レベルアップ」「さらにレベルアップ」에서 유사 표현과 사용 방법, 용법을 이해하고, 「練習2」「文作り」「間違い探し」「用例見つけた!」에서 확인해 주세요. 연습 문제를 풀고 나서, 별책의 해답으로 답을 확인하고, 모르는 곳이 있으면 본 책으로 돌아 가서 설명을 한 번 더 읽고 확인해 주세요. 「文作り」는 주어진 어휘나 문맥이나 장면을 상상해서 적절한 문장을 완성하세요. 해답에 한 예가 있으니 자신이 만든 문장과 비교해 보세요. 「用例見つけた!」는 어휘의 의미를 확인하면서 읽어 보세요. 「クロー징・トーク」는 소리를 내어서 읽어 보거나 암기해서 말 해 보세요.

●어휘에 대해서... 문법 해설 안에 있는 어려운 어휘(구 일본어 능력시험 2 급이상의 어휘)에는 오른쪽에 영어, 중국어, 한국어의 번역이 있습니다. 예문 안에도 어려운 단어가 들어 있습니다만, 사전을 찾으면서 어휘의 의미를 확인해 주세요.

●루비에 대해서... 읽는 방법이 어려운 어휘(구 일본어 능력시험의 2 급이상의 한자)에는 루비가 붙어 있습니다. 중급 이상에서는 모르는 단어에 접하는 경우도 많이 있을 것이라고 생각합니다. 사전을 찾으면서, 어휘를 늘이는 연습을 하는 것에 도움이 되리라고 생각합니다.

●문법 용어 해설에 대해서... 기본적인 문법 용어에 대해서, 해설을 넣었습니다. 「→(?)p.000」의 마크에 따라서 참조 페이지를 보세요.

●범례에 대해서... 활용형을 「凡例」에서 제시했습니다. 「→凡例」에 따라서 참조해 주세요.

この教科書をお使いになる先生方へ

●この教科書の特徴と使い方の例

この教科書には、日常場面に応用できる文法説明や活動を取り入れました。また、学習者の語彙力の向上も一つの目的であるため、例文などでも難易度の高い語彙を使っています。コミュニケーション上の問題を意識して詳しく説明したり、類似表現の使い分けなどには専門的な内容も含まれています。できるだけ、学習者が自分で読んで理解できるように平易な文章を心がけましたので、学生には授業に来る前に知らない言葉を調べながら、文法説明を読んで練習問題の答えを書いてくるように勧めてください。自律学習を進めつつ、授業では練習問題の答え合わせや学生からの質問について一緒に考える時間を設けていただければと思います。

●この教科書を使った授業の一例

1年間で30回授業(前期15回、後期15回)の場合、前期は第1課から第12課まで、後期は第13課から第24課までのそれぞれ12課分を行います。初回はオリエンテーション、学期の中ほどは中間テスト、最後の日は期末テストを行います。授業は週1回1コマ(90分)で、1課進めます。

授業に来る前に、その課の「まずは確認」「確認」の文法説明を読んで、練習問題(「練習1,2」「文作り」「間違い探し」)の答えを書いて予習してくるよう指導します。授業では学習者の質問に答えたり、「レベルアップ」「さらにレベルアップ」の内容について確認しながら練習問題の答えを確認する活動を中心に行います。予習の仕方は、基本的には教科書の文法説明を読み、「スタート・トーク」を行い、すべての「練習問題」の問題を解いてくることです。分からない言葉は辞書を引いて調べてくるよう指導します。授業内では学生にどんどん答えを発表してもらって、解答の理由についても説明してもらうといいでしょう。

以下は、1コマの授業の進め方の例です。(1コマ90分の場合)

スタート・トーク [約5分]	授業開始時に5分程度ウォーミングアップとしてやる活動です。ペアになり、絵のような場面ではどのような表現を使うのかを考え、会話を作ります。 実際の場面を想像し、自分の持っている日本語力を振り返りながら、その日の学習項目を意識化させることができます。
まずは確認 確認 [約10分]	説明されているポイントを学生に質問する形で確認します。 ここではその課の文法項目の基本的な意味や用法を丁寧に解説しています。その内容を次の「練習1」で確認してください。
練習1 [約10分]	活用や接続などの形態と、基本的な意味の確認ができます。基本的なことが理解できていれば立ち止まらずに進めます。
レベルアップ さらにレベルアップ [約20分]	内容を確認します。ここでは、コロケーション情報やコミュニケーション上の留意点、類似表現との使い分けなどについて説明しています。中級レベルの学生は新しい情報を習いたいと希望する学生が多いですが、「レベルアップ」「さらにレベルアップ」の内容を丁寧に説明することで、学習意欲が上がり、チャレンジする気持ちも強くなります。その内容を次の「練習2」で確認してください。

練習2 [約10分]	四択問題が中心です。用法や使い分けなどの確認ができますが、四択問題なので日本語能力試験等の対策にも有効に使えます。 ここでは、間違いが多い活用や、使い分けを確認する錯乱肢があるため、ひっかかる学習者もいますが、そこが押さえてほしいポイントです。間違っただけで理由が分かるよう、そして正しい答えが選べるように時間をかけることが望ましいです。「練習1」「練習2」は教室で解答を確認しながら、学生に解答の理由について説明させると、さらに文法を意識して話せるようになるでしょう。
文作り [約15分]	この課で勉強したことが適切に産出できるかを確認します。 学習者からいろいろな内容の文が出たり、語彙や表現の適切さについて質問が出たりするかもしれません。ここではできるだけ時間(15～20分程度)をかけてください。基本的には、学習者に予習として文を完成させてくるよう指示し、授業では学生が作ってきた文を発表させ、文脈の理解、語彙の選択、表現のバリエーションなどについて話し合う時間を設けるのも有効です。
間違い探し [約10分]	間違いの箇所を確認し、間違いの理由を確認します。 学習者の実際の誤用例を参考にして作成しました。間違っている部分と理由、正しい表現について話し合ってみてください。学生が各文法項目の中で混乱しやすい部分や間違いが起りやすい理由が分かると、学生が間違いを直すことによって同じ間違いをしないよう注意するようになります。
用例見つけた [約5分]	その課の項目が使われている生の文章を読みます。この活動を通して「分かった」「読めた」という成功経験を積み重ね、学習に目的や意欲を持ってもらいたいというねらいがあります。学習者にとって有益だと思われる日本事情や日本文化に関わるトピックを取り上げました。
クロージング・トーク [約5分]	「スタート・トーク」と同じ場面を各課の最後に「クロージング・トーク」として提示しました。授業が終わる直前にコーラスしたり、暗記したり、ペア・リーディングすることによって復習の効果が期待できます。「クロージング・トーク」を「スタート・トーク」とシンクロさせることで、学習者の記憶に負担をかけず、この場面ではこの表現を使うということを自然に覚えられるでしょう。

●本書の仕様について

語彙について… 文法説明内の難しい語彙(旧日本語能力試験の2級レベル相当の語彙)には右側に英語訳、中国語訳、韓国語訳をつけました。例文の中にも難しい言葉が含まれていますが、辞書を引いて語彙の意味を確認してください。

ルビについて… 第1課から第10課は旧日本語能力試験3級レベル以上の漢字語彙に、第11課から第24課には同試験2級レベル以上の漢字語彙にルビをつけました。適宜、辞書を引いて意味を確認するよう指導してください。中級レベルでは知らない言葉に出あうことも多くなりますが、辞書を引きながら、語彙を増やしていく練習に役立つと思います。

文法用語について… 巻末に基本的な文法用語について、解説を入れました。本文中の「→(?)p.000」マークに従い、必要に応じて参照ページをご覧ください。

凡例について… 活用形を「凡例」で示しました。本文中の「→凡例」に従い、必要に応じて、表紙裏の凡例をご覧ください。

SAMPLE

レベルアップ 日本語文法

中級

- 1 … 10 …… 初中級レベル
- 11 … 24 …… 中上級レベル

スタート・トーク

次のような場面で、2人の会話はどうなるでしょうか。_____に適切な表現を書いて、会話を完成させてください。

〈倉庫で〉



この課の表現

指示詞 「コ系」「ソ系」「ア系」「ド系」

まずは確認

	指示詞			疑問詞
	コ系	ソ系	ア系	
連体詞	この	その	あの	どの
	こんな	そんな	あんな	どんな
	こういう	そういう	ああいう	どういう
	このような／ こんな	そのような／ そんな	あのような／ あんな	どのような／ どんな
物	これ	それ	あれ	どれ
場所	ここ	そこ	あそこ	どこ
方向	こちら	そちら	あちら	どちら
	こっち	そっち	あっち	どっち
副詞	このように／ こんなに	そのように／ そんなに	あのように／ あんなに	どのように／ どんなに
	こう	そう	ああ	どう

疑問詞 → p.246

連体詞 → p.253

方向：direction, 方向, 방

【指示詞とは】

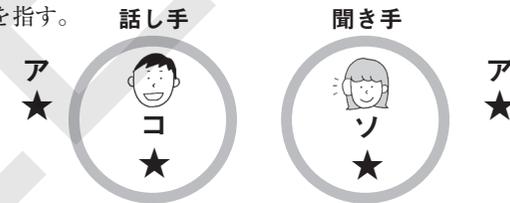
話し手が聞き手に対して現場や文脈上の何かを指すときに使う言葉。

(1) 現場指示

話し手と聞き手が話している現場で、人、物、場所を指す時に、コンソアの言葉(「コ系」「ソ系」「ア系」「ド系」)を使って表現する。

① 物・人

- 「コ系」= 話し手の近くにある物・人を指す。
- 「ソ系」= 聞き手の近くにある物・人を指す。
- 「ア系」= それ以外を指す。



- A: あのう、その電子辞書、ちょっと見せてもらえませんか。
- B: ああ、これですか。いいですよ。どうぞ。

② 聞き手の所有物

- 「ソ系」= 聞き手の洋服や身につけている物など、相手の持ち物を指す。
- 中村: 田中さんはいつもそのネックレスをつけていますね。特別な物ですか。
- 田中: ああ、これですか。母がくれた物なので大切にしているんです。

③ 場所(空間)

- 「コ系」= 話し手がいる場所、または話し手と聞き手が一緒にいる場所を指す。
- 「ソ系」= 話し手と聞き手から見て、中間にある場所を指す。
- 「ア系」= 話し手と聞き手から見て、遠くにある場所を指す。



- A: 来週の打ち合わせの場所はここでいいですか。
- B: ええ、来週もここでやりましょう。

〈道で〉

- A: あのう、すみません。郵便局はここから遠いですか。
- B: いいえ、遠くないですよ。そこに白い建物があるでしょう。郵便局はその建物の1階です。

話し手: person speaking, 说话者, 화자

聞き手: person spoken to, 听者, 청자

指す: to indicate, 指, 가리키다

現場指示: position indicator, 现场指示, 현장지시

表現する: to express, 表现, 表达, 표현하다

所有物: possessions, 所有物, 소유물

身につける: to be on one's person, 穿戴, 몸에 지니다

相手: person being directed, 对方, 상대

持ち物: belongings, 持有物, 소지품

空間: space, 空间, 공간
中間: middle ground, 中间, 중간

④ 方法・程度

- 方法・やり方を説明するとき＝「こう／そう／ああ／どう」を使う。
 程度を表すとき＝「こんなに／そんなに／あんなに／どんなに」を使う。
- ・〈書道教室で〉
筆はこうやって持ちます。えんぴつの持ち方でまっすぐ立てます。
 - ・どんなに忙しくても毎日母に連絡している。

程度: degree/depth of something, 程度, 정도
 やり方: method/way of doing something, 做法, 方法, 하는 방식
 表す: express/show, 表示, 나타내다

(2) 文脈指示

会話に出ている人、物、場所や、記憶の中にある人、物、場所などを指すときに、「コ系」「ソ系」「ア系」の言葉を使って表現する。

文脈指示: context indicator, 文脈指示, 문맥지시
 記憶: memory, 记忆, 기억

① 両方が共有している内容

- 「ア系」＝話し手と聞き手の両方が分かっていること、共有していることについて話すときに使う。
- ・ A: 今年はどこで花見をしましょうか。
 - ・ B: 去年、一緒に行ったあの公園はどうですか。

共有する: to share, 共有, 공유하다
 内容: content, 内容, 내용

② 両方が共有していない内容

- 「コ系」＝話し手が考えていることや経験していることについて話すときに使う。
 「ソ系」＝話し手と聞き手の両方が知らない、または、どちらか一方しか知らないことについて話すときに使う。
- ・ この話は、まだ誰にも話していないんですが、実は、来年アメリカに留学したいと思っています。
 - ・ 佐藤: オウさん、初詣って、知ってる?
 オウ: いいえ、知りません。それ、何ですか?

一方: one side, 单方, 一方, 한쪽, 한편

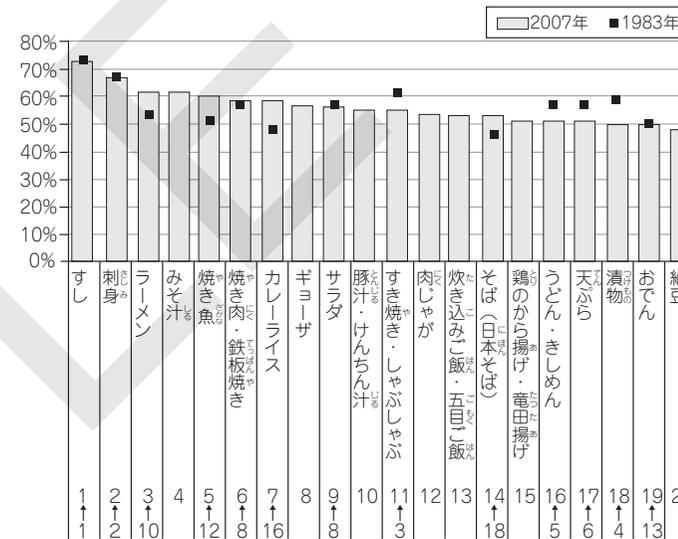
代名詞 → p.250

(3) 代名詞

- 「ソ系」＝話や文章の中で前に一度出た言葉の代わりに使う。
- ・ 昨日、筑波山へ遊びに行きました。そこ(筑波山)で、田中さんに会いました。
 - ・ 昨日新しいコーヒーマーカーを買った。それ(新しいコーヒーマーカー)でコーヒーを入れて飲んでみた。とてもおいしかった。

(4) 強調

- 「コ系」＝話や文章の導入のときに、話し手が示す内容に聞き手の注目を集めるために使う。
- ・ こちらをご覧ください。これは、日本人の好きな料理について、1983年と2007年の調査の結果を比較したものです。好きな料理のトップは「すし」で、日本人の73%が「好き」と回答しています。



社会実情データ図表
 NHK 放送文化研究所世論調査部「日本人の好きな物」2008年、同「放送研究と調査」

強調: emphasis, 強調, 강조
 導入: insert, 導入, 도입
 示す: to indicate, 指示, 显示, 나타내다
 注目: caution, 注目, 주목

練習 1

▶ 次の a. と b. のうち、ふさわしいほうを選んでください。

- A: 大学の近くに新しいレストランがオープンしたけど、知ってる?
 B: えっ、() どこですか。
 a. それ b. あれ
- A: すみません、()、日本語でなんて言うんですか?
 B: ああ、それね、ホチキスって言うんですよ。
 A: そうですか。じゃあ、() はなんて言うんですか?
 B: それはね、定規って言うんですよ。
 a. これ b. あれ



3. A: 待ち合わせの場所、どこにしましょうか。
 B: 駅前の喫茶店はどうですか。
 A: ああ、()なら、近くて便利です。
 a. そこ b. あそこ
4. A: 木村さんは本当に親切ですね。
 B: ええ、ほんと。()やさしい人はあまりいないと思いますよ。
 a. そんなに b. あんなに

5. A: タイ焼きって、おいしいですね。
 B: えっ、()何ですか。魚ですか。
 a. それ b. あれ

6. <筑波山で>
 A: ここは眺めがいいですね。
 B: ほんと。つくば市内が全部見えますね。
 A: あっ、()に富士山が見えますよ。
 B: ほんとうですね。筑波山から富士山が見えるなんて知りませんでした。
 a. そこ b. あそこ



7. A: ねえ、昨日、図書館で会った()人、紹介してくれない?
 B: えっ、田中さんのこと?
 A: うん、とても素敵な人だなと思って。
 a. その b. あの

8. 妹: もう、お兄ちゃんなんか大嫌い。()行って。
 兄: ごめん、ぼくが悪かったよ。機嫌直して。
 a. あっち b. そっち

9. A: あのう、大変なときに、()お願いをするのは申し訳ないんですが。
 B: お願いってなんですか。
 a. こんな b. そんな

10. <道で>
 A: あのう、すみません。地下鉄の駅に行きたいんですが、ここから遠いですか。
 B: いいえ、すぐ()ですよ。
 a. そこ b. あそこ

↑ レベルアップ

(1) 指示詞の形

① 複数の場合の表現

「これら／それら／あれら」を使うこともあるが、一般的には「これ／それ／あれ」を使う。

- ・ これは私の本です。(1冊)
- ・ これらは私の本です。(2冊以上)
- ・ これはぜんぶ私の本です。(2冊以上)

② 丁寧な指示詞の表現

現場指示の場合

人: この人、その人、あの人、どの人
 物: これ、それ、あれ、どれ
 場所: ここ、そこ、あそこ、どこ

丁寧な表現

こちら、そちら、
 あちら、どちら
 ※「どの人」は「どなた」
 になる。

<友だちを先生に紹介する>

- ・ オウ: 田中先生、こちらは私の友だちの木村さんです。
- 木村: はじめまして。オウさんの友だちの木村です。どうぞよろしくお願ひします。
- 田中先生: はじめまして。田中です。どうぞよろしく。

(2) 指示詞の使い方

① 疑問詞の使い分け

2つの中から1つを選ぶときは「どちら」、3つ以上の中から1つを選ぶときは「どれ」を使う。

人: 2人の中から選ぶ = どちら / どっち

3人以上の中から選ぶ = どの+人(方)、誰、どなた

物: 2つの中から選ぶ = どちら / どっち、どちらの / どっちの+名詞

3つ以上の中から選ぶ = どの+名詞、何、どれ

- ・ お二人は、どちらが年上ですか。
- ・ 本がたくさんありますが、木村さんの本はどれですか。
- ・ チェック柄としまもようと水玉もようの中で、どの柄が似合いますか。

複数: plural, 复数, 복수
 表現: expression, 表现, 表
 达, 표현

使い分け: differentiation of use, 区别用法, 적절한 사용

② 疑問詞の使い方

会話でいろいろな物の中から1つの物を選ぶときは、「何 → どれ → どちら / どっち」の順番で、1つの物を選ぶ。すでに2つまで選択しているときは、「何」「どれ」を省略することもある(→ A2、B2 の会話)。

〈ファミリーレストランで〉

・ A1: ねえ、何、食べる?

B1: うーん、今日はスパゲッティにしようかな。

A2: わあ、いろいろなスパゲッティがあるね。どれにする?

今日のおすすめは、ナポリタンと和風スパゲッティだって。

どっちもおいしそう。どっちにしようかな。

B2: 私はナポリタン。

順番: order, 順序, 順番
 選択する: to choose, 选择, 선택하다

省略する: to shorten, 省略, 생략하다

③ 会話中の内容の共有

会話の中で、話し手が言った内容を聞き手も共有できるようになったとき、「ソ系」から「ア系」に変わることがある。

・ A: この仕事は木村さんに頼みましょうか。

B: えっ、その人、誰ですか?

A: ほら、先月からバイトに来ている背の高い人ですよ。

B: ああ、分かった…。あの人ですね。あの人なら、やってくれると思います。

練習2

▶ 次の a. ~ d. の中で、最もふさわしいものを選んでください。

1. A: 今、持っている()本、ちょっと見せてもらえますか。

B: あ、これですか。どうぞ。

a. その b. この c. これ d. それ

2. A: (), 日本語で何て言うんですか?

B: あ、これですか。修正テープって言うんですよ。

a. この b. その c. これ d. それ

3. A: ()ピアス、すてきですね。

B: ああ、これ。昨日、買ったんですよ。いいでしょう。

a. これ b. それ c. この d. その

4. A: ねえ、あそこに座っている緑のシャツを着た人、知ってる?

B: ああ、()人、韓国からの留学生の金さんですよ。

a. この b. その c. あの d. どの

5. この間、秋葉原に買い物に行きました。しかし、道が分からなくて困っていました。()とき、通りがかりの親切な人が道を教えてくれました。本当に助かりました。

a. この b. その c. あの d. こんな

6. A: この指輪、見て。昨日、彼氏にもらったの。きれいでしょ。

B: いいなあ。私も()指輪がほしいなあ。

a. あんな b. そんな c. どんな d. それ

7. A: このゲーム、どうやって遊ぶんですか?

B: ()やって遊ぶですよ。見てて。

a. これ b. そう c. こう d. こんな

8. メニューの中から()でも好きな物を1つ選んでください。

a. どれ b. どちら c. どこ d. それ

9. 昨日、はじめて山下公園へ散歩に行きました。()でぐうぜん田中さんに会いました。

a. ここ b. そこ c. あそこ d. どこ

10. A: 何を()急いでいるんですか。

B: もうすぐ授業が始まるんです。早く行かないと遅刻するんです。

a. こんなに b. そんなに c. あんなに d. どんなに

文作り

▶ この課の項目(指示詞)が含まれる文を作ってください。()は①②③の中でふさわしい指示詞を選んでください。

1. 去年、友だちと a. _____ を旅行しました。(①ここ・②そこ・③あそこ)では、
 b. _____。とても楽しかったです。

2. 私の友だちに a. _____ さんがいます。b. _____ は c. _____。

3. 5ページのグラフの2007年の結果を見て教えてください。

日本人の好きな食べ物について調査をしました。a. _____ 結果、好きな食べ物のベスト3は、
b. _____、c. _____、d. _____ ということが分かりました。一方、納豆は20位になって
いました。やはりすしは日本人が一番好きな食べ物だということが分かりました。

4. 昨日、インド料理のレストランへ行きました。a. _____ で、カレーを食べました。b. _____ あ
と、映画館へ行きました。3D映画で話題になった『スペース・ウォーズ』という映画を見ました。
友だちにc. _____ 映画のことを話したら、「ああ、私も見た。d. _____ 映画、おもしろいよね。」
と言っていました。友だちと映画の話をして楽しかったです。

5. 〈電話で〉

A: 今、a. _____ は雨が降っていますが、b. _____ はどうですか。

B: c. _____ は、とてもいいお天気ですよ。

6. 〈道で〉

A: あのう、すみません。ちょっとおたずねしますが、バス停はa. _____ から遠いですか。

B: いいえ、すぐb. _____ ですよ。c. _____ に高いビルが見えるでしょう。

バス停はd. _____ ビルの前にありますよ。

A: どうもありがとうございました。

B: いいえ。



7. 生きるか死ぬか、_____ が問題だ。(To be, or not to be: that is the question.)

(『ハムレット』、シェイクスピア)

間違い探し

▶ 次の文には間違いがあります。間違っているところに _____ を引いて、正しく直してください。

1. 来週、スカイツリーの前で会いましょう。あのとき、借りていた本を持っていきますね。

2. A: わあ、すごく並んでる。

B: ほんとだ。そんなに人が多いと思わなかった。

3. A: この中で一番好きなものを選んでください。

B: たくさんありますね。どちらにしましょうかね。

4. 私は小学生のとき、沖縄に行ったことがあります。あのとき、はじめて海で泳ぎました。

5. A: 日本で勉強が終わったら国へ帰って仕事が見たいです。

B: あれはいいですね。ご両親も喜ぶでしょうね。



下の文章に、この課で勉強した項目(指示詞)が、使われています。どのように使われているか意味を考えながら、次の文章を読んでみましょう。

お参りを終えた帰り道で、中学生の娘が突然、「痛い、痛い!」と叫びました。人ごみに押されて、小道に沿った溝に落ちてしまったのです。幸い大けがにはなりませんでした。私が支えて歩かなければなりません。

娘は怒って「おこづかいからたくさんおさい銭をあげたのに、こんな目にあうなんてひどい! こんな神社には、二度と来ない」と言いました。私は娘に同情し、「神社は神様を利用して金もうけをしている」とつぶやきました。すると、妻は「大けがではなかったわよね? これはきっと神様のおかげですよ」と言って娘を慰めました。

それからしばらくして、ある神主と話す機会がありました。私がこの話をすると、神主はこう言いました。「人間は、物事を前向きに考えられる才能が生まれながらに備わっています。娘さんは、お母さんからそのことを学びました。そのことがわかる機会を神様が与えてくださったのです。その御利益を考えれば、おさい銭なんて安い授業料ですよ」と。

「神様がかわいそう!?!」より
Hir@gana Times(2011.1) pp.24-25

- お参り: pray (at a temple), 参拜, 참배
- 突然: suddenly, 突然, 突然, 갑자기
- 叫ぶ: to cry out, 叫, 叫び, 외치다
- 人ごみ: a crowd (of people), 人群, 인파
- 小道: path, 小道, 갯길
- 沿う: to run alongside, 沿着, 따르다
- 溝: ditch, 水沟, 도랑
- 幸い: fortunately, 幸运, 庆幸, 다행
- 支える: to support, 支撑, 支撑하다
- おこづかい: pocket money, 零花钱, 용돈
- おさい銭: an offering to the Gods, 香火钱, 시주
- 同情する: to sympathize with, 同情, 동정하다
- 金もうけ: money making, 赚钱, 돈벌이
- つぶやく: to murmur, 嘟囔, 轻语, 중얼거리다
- 慰める: to comfort, 安慰, 위로하다
- 神主: Shinto priest, 神官, 신관
- 前向きに: positively, 积极向前地, 전향적
- 才能: talent, 才能, 재능
- 備わる: to endow with, 具备, 갖추어있다
- 御利益: benefit, 恩惠, 영점, 은혜

クロージング・トーク

教室にあるテレビのリモコンの電池が切れてしまった。そのとき、田中さんが来たので倉庫で一緒に電池を探した。新しい電池はいつもしまもようの箱に入れておくのに、その箱に入っていなかった。倉庫にはいろいろな物があって、電池を探すのが大変だった。普段から整理しておけば、必要なときにすぐ見つかると思う。これからはきちんと整理することにした。